

# 私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会NEWS 2011年 (平成23年)4月

31号

## 「まちカツ！・たまサロン」特集

多摩区まちづくり協議会の一大イベント「まちカツ！・たまサロン」は、まち協をはじめ、さまざまな団体の活動を紹介し、区民の皆さんや市民活動団体との意見交換ができる交流の場です。

今号は、活発な意見交換で盛り上がった会場や、各プロジェクトの活動の様態を皆さんにより詳しくお伝えする、8ページの特別号です。



たくさんの来場者が

### 会場は雪をも溶かす 熱気

平成23年2月11日に、今年で2回目となるまちづくり活動発表会「まちカツ！」と意見交換会「たまサロン」を同時開催しました。この冬の寒さと雪にもかかわらず、約70人の方々に参加していただきました。

第1部の「まちカツ！」では、多摩区まちづくり協議会が今年度進行してきた三つのプロジェクトの活動報告を行いました。

続いて、各地域でまちづくり活動に取り組んでいる「長沢ひろば」「のぼりとゆうえん隊」「岡さんのいえTOMO」の三つの団体から日ごろの活動を紹介していただきました。

第2部の「たまサロン」は、まち協の活動の目的の一つである「中間支援」の取り組みとして開催してきたもので、事例紹介いただいた三つの団体を話題の中心に、まちづくりにおける課題解決について意見交換

を行いました。

さらに、今年初めて1階アトリウムで多摩区内の18団体の活動展示を4日間行い、ご好評をいただきました。

日ごろ、私たちが課題としている活動の場の確保や人材の見いだし方、活動を活性化させる仕掛けなどについて活発な議論が交わされ、皆さんの今後の活動の参考になったのではないかと思います。

私たちがまち協では、今回のまちカツ！たまサロンでいただいた意見や課題解決のヒントを、次年度の取り組みに生かしていきたいと考えています。

お招きしました「長沢ひろば」「のぼりとゆうえん隊」「岡さんのいえTOMO」の皆さん、そして当日雪の中をお越しいただいた参加者の皆さん、ありがとうございました。

(本多)



アトリウムでは18団体が活動展示



グループで出された意見を紹介しました



参加者それぞれに新しいつながりが生まれました

### まち協のなかまたち

まち協への委員推薦団体を紹介します

#### 多摩区PTA協議会



企画会議の風景

多摩区PTA協議会は、中学校7校、小学校14校のPTA会員の理解協力により成り立っている組織です。活動内容としては、保護者に向けた各種講演会、スポーツ大会の開催などの企画運営と各学校間の情報交換の場を提供しています。(植村)

#### 多摩区老人クラブ連合会



体育館で昔遊び体験

多摩区老人クラブ連合会は「健康」「友愛」「奉仕」の三大運動を基本に、健康体操や歩け歩け運動、グランドゴルフに講演会などさまざまな活動を会員が楽しみながら行っています。地域では各小学校や町内会・自治会、社会福祉協議会とも連携を深め、明るい社会の実現を目指して活動しています。(ト部)

### 多摩のくらし～歳時記

#### ～雛(ひな)の節句・桃の節句～

3月3日は「雛の節句・桃の節句」です。「上巳(じょうし)の節句」とも呼ばれています。昔から、その年の汚れや災いを人形に移して川などへ流す民間風習があり、平安時代から宮中で行われていた女の子の人形遊びが、江戸時代に節句の儀式と結びつき、3月3日の節句に雛祭りを行うようになったと推測されています。



女の子が生まれると、節分(立春)が過ぎ桃の花がふくらむころ、母親の実家からお雛さまが送られてきます。三段、五段、七段などの雛壇に赤い毛氈(もうせん)を敷き、人形などを飾ります。最上段に御殿や内裏雛(天皇、皇后をなぞらえている)、二段目に三人官女、三段目に五人囃子(地謡、笛、小鼓、大鼓、太鼓)、四段目に左大臣、右大臣(明治初期の最高官職のひとつ)、五段目に隨身(すいしん)、衛士(えいし)などを飾ります。さらに桃の花、白酒、赤白緑の三段重ねの菱餅を供え、神奈川県では菜の花の生花も添えてお祝いします。

お雛さまを長く出しておくと、女の子の嫁入りが遅くなるという伝えられ、また、お雛さまを出さないと「人形が泣く」とも言い伝えられています。近年は内裏雛のみや、三人官女、五人囃子などのコンパクトなお雛さまが多く飾られているようです。(川口)

### 新年度の取り組み 一緒に考えませんか?

多摩区に住む私たちの身近な課題の中で、今取り組まなくてはならないことは何でしょう。

新年度の新しい活動について、私たちと一緒に考えてみませんか。まずは私たちの活動をのぞきにきてください。プロジェクトの活動は随時見学ができます。あなたのご参加をお待ちしています!(連絡は事務局まで)

### ●まちカツ！・たまサロンアンケート

【回収数】参加者72人中28人

【参加年齢】20代11%・30代7%・40代11%・50代18%・60代以上42%

【まち協活動発表への感想】

- 内容がよくまとまっていて分かりやすかった。
- よく活動している。地域で活動しているグループと一層連携していくといい。
- もっと区民にCMが必要

【3団体の事例紹介への感想】

<長沢ひろば>

- スペースの活用で難しい。お手伝いできたらと思う。
- 地域や大学との連携によるイベント開催の楽しさとは逆に、運営の難しさがあった。

<のぼりとゆうえん隊>

- 活動している人たちの若さゆえの活力あるイベントに興味を引かれた。
- 面白い活動をしていることが分かった。代表のパワーを感じた。

<岡さんのいえTOMO>

- いろいろな人たちの力をうまく利用し、地域にとけ込んでいるのがうらやましかった。
- 近隣の他地域の事例を聞くのはとても大事だと思った。

【意見交換についての感想】

- とても意義のある内容で、時間が短かった。
- 楽しく色々な方の話が聞け、また、私自身ホップ・ステップ・ジャンプしていきたい。
- 地に足がついた意見交換で内容深いものだった。

### 編集後記



この冬は、カラカラ天気が長く続き、インフルエンザが流行しました。一方、日本海側では豪雪。九州では、新燃岳の噴火に火砕流、土石流の危険もあり、1991年6月に発生した、雲仙普賢岳火砕流の恐ろしさを思い出さずにはいられません。

3月11日、「東日本巨大地震」が発生、大津波により壊滅的な未曾有の大惨事が起こりました。続く東電福島原発の事故、電力不足による計画停電と、かつて経験したことがないことが起っています。被災された方々には、心からお見舞い申し上げ、お亡くなりになられた方々には、深く哀悼の意を表します。

災害時には、人の温かみ、つながりが最も大切なことを、あらためて強く感じました。(古川)

多摩区まちづくり協議会へのご意見・ご質問、プロジェクトへの参加申し込みはこちらへお願いします。  
【事務局】TEL:04-264-0400  
【多摩区役所地域振興課まちづくり推進係】  
電話 0426-0400-48  
FAX 0426-0300-1  
Eメール 71tsin@city.kawasaki.jp

# 前半 まちカツ！ 事例に学ぶまちづくり

長沢ひろば



長沢ひろばの原山さん



商店街にある長沢ひろば

## ★商店街と地域の学校が連携した商店街の拠点活用

長沢ひろばは、空き店舗を活用して住民、自治会、商店会が一体となり設置されたまちづくりの拠点です。

そこではボランティア団体をはじめ、近隣の小・中・高校や、専修大学のゼミ生が参加する企画などが行われ、若い人と商店会が協力し合うことで、まちの活性化につながっています。

たまサロンでは、さらに生き生きとした活動にするのはどうしたらよいか、みんなで知恵を出し合いました。

市民活動団体が定期的に活動できる場所の確保が課題になっている中で、拠点を持っていることや市民が自らかかわって盛り上げていく過程に参加できるのがうらやましい限りです。(池田)

# 後半 たまサロン グループでの意見交換

## ★大学の知恵や学校のネットワークを活用して地域ぐるみでまちを元気にするカツドウ

他のグループ同様、年配の参加者が多いなか、大学生二人の活躍が光りました。「特定の団体と深くつながる弊害は、他団体が入りにくいこと。今後は多方面とネットワークを形成してイベントを企画していくことが望ましい。ぜひ協力したい」と力強い応援の声もありました。

長沢ひろばの近くには、生田高校や百合ヶ丘高校もあります。ここを拠点に若者の情熱が集結するといいですね。かのクラーク博士は、学生たちとの別れ際に「少

年よ、大志を抱け」との言葉を残しました。こうした活動に参加する勇気があるのは、大志ある証しではないでしょうか。

(岩見)



学生や商店街関係者も参加した意見交換

＜参加者の感想＞

私は多摩区にある大学に通っている学生の一人として、もっと地域を知りたいと思い参加させていただきました。

意見交換の場では誰かにやってもらうのではなく、自分たちでより良い地域にしようとしていることを知りました。今回、多摩区に愛着や誇りを持って暮らしている多くの方と出会うことが出来ました。区外に住んでいる私にとって、それこそが多摩区の魅力の一つであると感じた日になりました。

(男性・20代学生)

## ★地域の若者たちのネットワークでまちの賑わいづくりに活躍

のぼりとゆうえん隊



のぼりとゆうえん隊の野仲さん



商店街のお祭りでのかえっこバザール

のぼりとゆうえん隊は登戸・向ヶ丘遊園地区をより楽しくしようと、商店街など地域と連携しながら、さまざまなイベントを行っています。

現在70数人のメンバーがいて、中心的メンバーは15人ほどですがインターネット、メール、ツイッターなどの手段を使い、やりやすい方法で連絡し合うことを重視し

ています。

これまで、商店街のナイトバザールへの参加、まちなかアートイベント、かえっこバザールなどを催し、他の団体と連携して、地域のイベントを盛り上げてきました。

まちカツ!ではプロジェクターを使い、写真をたくさん入れて分かりやすく紹介していただきました。

(木村)

## ★商店街や地域と連携し、イベントを活用してまちを元気にするカツドウ

のぼりとゆうえん隊は、登戸・向ヶ丘遊園地区の活性化を目指して発足しました。

各方面でイベントを盛り上げて活躍されていますが、今日も最近の活動事例を示しつつ、参加者とイベントを盛り上げるコツに



ネットの活用など特に情報共有の方法についてたくさんの意見が

ついて熱い討論を展開し、会場を沸かせていました。

人と人のつながりを生かしたり、共通のテーマを持つグループとの連携や、若い人を取り込むことで、より新鮮な企画が生まれ、催し物の盛り上がりも生まれるようです。また、インターネットの力を借り、広く地元の情報を発信して他グループと連携することで、より一層の地域発展の力となるのではという声が多くあがりました。

(安陪)

＜参加者の感想＞

ここ数年、全国で「まちづくり」が盛んです。私も4年前から地方の地域再生にかかわっていました。地方ならではの悩み、都会ならではの悩みがありますが、多摩区には人も人材もそろっています。観光資源もあります。人がたくさんいるということは、たくさん知恵・力があるのです。都会ならではの強みです。また共通のテーマがあると、どんな活動をしたらいいのかわかりやすいです。あとは受け取りやすい情報発信があると良いですね。(女性・40代)

## ★「地域共生のいえ」制度で、個人の住まいを地域の居場所づくりに活用

岡さんのいえTOMO

岡さんのいえTOMOは、大叔母から「地域に残してほしい」と、住んでいた自宅を託されたオーナーの小池さんが「地域共生のいえ」としてオープンしました。運営には世田谷トラストまちづくり大学を卒業した人たちが参加しています。

「まったりサロン」では、岡さんのおやつレシピをもとに「おやつの時

間」を開いて、ここに集う親子のホットできる場所になっています。「あいてるデー」には、駄菓子屋さんも開店し、元気な子どもたちが集まります。人と人のつながり、見守り合う関係など、まちづくりのものがつまった、まさに地域に開かれたホットできる「いえ」となっています。

(須崎)



岡さんのいえTOMOの小池さん



いろんな世代で楽しむクリスマス会

## ★地域に埋もれている資源(建物や人材)を活用してまちを元気にするカツドウ

参加者との意見交換は、地域ですでに活動している人、これからやろうとしている人で活気ある意見が飛び交いました。「岡さんのいえが集う場に変化したキッカケは?」との問いかけに、オーナーの小池さんより早く、見守り隊の方から「活動を継続して、時間をかけて受け入れてもらうことです」と極めて明りょうな答え。運営に関しては「ただ開けているだけの日があってもいい」。こんな気負わない姿勢を貫いている一方、「言ったことはやりましょう」



岡さんのいえのような地域の居場所づくりに関心のある方たちが集まった

という強い気構えも見受けられました。この柔軟な取り組みが地域に密着しつつある要因なのかと、今後の活動に大きなパワーをもらいました。

(久野)

＜参加者の感想＞

持ち家を地域活動に提供する「岡さんの家」の話は、真実暮らしの私には関係のないことだと思っていたのですが、地域と全くなかかわりを持たなかったオーナーの周りに近隣の人々が集まるようになった過程は、とても興味をひきました。

また、「誰かと一緒に何かをやってみよう」と思っている人がたくさん潜んでいるという事例は、地域活動を続けていくうえでの励みやヒントになり、有意義な時間でした。

(女性・50代)

## 地域にホッとできる居場所づくりを目指して

～楽しく遊んで 助け合う心をはぐくむために～

(世代間の交流ができるコミュニティセンターをつくらうプロジェクト 代表 久野)

### 1年を振り返って

今年度の活動を振り返ると、プロジェクトの活動が一つの目的に向かって動き始めてきました。メンバーそれぞれの持てる力をフル回転させて地域と連携しました。こども文化センターやわくわくプラザ、小・中学校などと積極的にかかわったことで地域と密着し、さらに目標であったホッとできる快い居場所のオープンに至りました。



多摩の居場所 **ふらっと** がオープン!

場になっていくことができたと考えています。

②メンバーが得意としていることや、やってみたいことを、協力し合って実現させてきました。ギョウザ作りやはり絵、お楽しみ会などのコミュニティサロンやわくわくプラザなどでお手玉・紙ヒコーキの昔遊びを行いました。

③これまでの小・中学生、高齢世代との交流に加えて、乳幼児とその保護者、大学生、30～40代世代との交流も持つことができ、世代間の輪を広げることができました。

「多摩の居場所ふらっと」は、私たちのすべての活動の拠点となりますので、その充実が来年度の最大の課題です。そのために、メンバー間の目標の共有化と協力体制の強化、地域へのPR活動の活発化、メンバーの増員に力を入れていきます。

- 活動を通して得たものは大きく次の3点です。
- ①街の中のホッとできるところ、誰でもが自由に立ち寄れる場「多摩の居場所ふらっと」をオープンしました。(毎月第4土曜日、13～16時)
  - みんなでワイワイガヤガヤと話し合いながら、この「ふらっと」を育てて、子どもたちが元気よく地域を駆け回り、乳幼児を抱えた親子や高齢者が孤立せず、お互いに支え合い助け合うような仲間づくりの

### 今年度は地域の人たちと一緒にこんな活動を行いました

いろいろな世代の人たちと交流しようという目的は、この地域に住む人々と心を通い合わせ、ちょっとした助けが必要になったとき、「手を貸して」と言い合えるつながりを持ちたいという思いからです。そのために私たちは3つの柱を軸にして活動しています。



**まちのみんなでお楽しみ会**  
8組の親子が参加。ティータイムでは、いつの間にか打ち解けてみんな笑顔で仲良しに…。



**駄菓子屋さん風景**  
「ふらっと」で駄菓子屋を開店!かわいい2人の店長さんが「ちびっこうれしい駄菓子屋さん」という店名を付けてくれました。



**サロン舞はじめ**  
小学生の女子3人による舞踊「神楽面」おかめとひよっとこのお面をつけて…。

世代を超えた人たちが集い合い、話したり聞いたり、自由に楽しみながら、心が和むいい時を過ごす。

月1回開催の「ふらっと」とコミュニティサロンが中心です

手助けが欲しい人と手助けをしたい人とを結ぶ橋渡しをして、お互いの思いを支え合い、生活を豊かにする



**そろそろ蒸しパンが出来たかな?**  
10月、生田中学校の「地域の人たちとの触れ合いと生徒たちとの相互理解を図る文化体験教室」、60人余りの生徒とメンバー9人が蒸しパン作り。「チョコをつまみ食いしたり、パンが焼けたときのおいしが忘れられません」と生徒の声。

こども文化センターや小・中学校など地域と密着した活動をしています



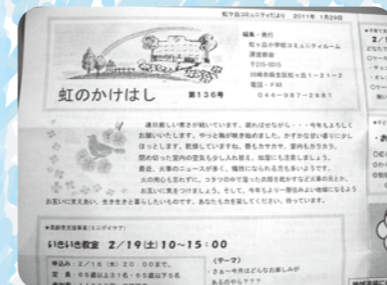
小学校の社会科見学でこども文化センターを訪れた子どもたち。大学生のお兄さんとコマ回し、うまく回るかな…。



わくわくプラザでの紙ヒコーキ作りと民家園のお話。どちらも真剣な顔、顔。ヒコーキはとてもよく飛びました。

サロンの情報を発信しながら、情報交換をして、双方が連携し合い、地域づくりの輪を広げていく。

他のグループと意見交換したり、広報紙の交換などを行っています



虹ヶ丘コミュニティだより



広報紙「COSMOS」4号



岡さんのいえTOMOSHIBUN

### 『車座勉強会』3回開催 テーマは『地域のことをよく知りましょう』

「安心して年を重ねるために」

**9月** ケアマネジャーを講師に迎え、地域の現状と何ができるかを話し合いました。地域全体が「助け合い支え合おう」という意識の醸成が大切なことを学びました。

**11月** 地域包括支援センターの方を講師に迎え、センターに寄せられる相談やそれに対する支援などについてお話を伺い、手助けが要る人の実情を学びました。

「子どもたちのことをよく知りましょう」

**10月** 幼児教育に携わっている方を講師に迎え、子どもたちがいきいきと健やかに過ごせるように環境を整えることが「まちづくり」であるとお話を伺いました。



久野代表

#### <平成22年度の活動概要>

- メンバー構成  
まちづくり協議会委員 8人  
プロジェクトメンバー 10人
- プロジェクト会議 月1回 計12回  
広報紙発行会議 年5～6回
- コミュニティサロン 8回
- わくわくプラザ協力 10回

## 活動拠点を生かす地域のネットワークづくり

(まちづくりネットワーク応援隊プロジェクト 代表 池田)



池田代表  
昨年度のプロジェクトの活動で、市民活動団体に共通している課題が「人集め」「資金集め」「活動する場所がない」であることが分かり、市民活動団体が利用できる公共施設や、民間のスペースなど使える拠点を33カ所調査しました。

実際に拠点に足を運んで得た情報は、区民会議と連携して、多摩区コミュニティ施設マップとして発行できる運びになりました。施設の追加や内容の更新はホームページやブログなどで発信していく予定です。

調査した拠点を使ってみた感想を得るために、若い人との交流にオジさんたちが元気をもらう



若い人との交流にオジさんたちが元気をもらう

調査した拠点を使ってみた感想を得るために、若い人との交流にオジさんたちが元気をもらう。区民や市民活動団体、多摩区内の3大学と連携してイベントをしようということになり、たまサロンのミニチュア版の出前たまサロンを実施しています。私たちのプロジェクトのイベントの特徴は、外部の団体に講師を依頼するなど、さまざまな団体と連携してイベントを進行していることです。



「紅茶の楽しみ方」に聞き入る参加者



初めて作ったマフィンに感激

第1回出前たまサロン(22年10月16日)では、食生活改善推進員に料理指導をお願いしました。プロジェクトメン

バーは参加者との触れ合いや交流に力を入れることができました。前半で食を通じて交流し、後半は多摩区の魅力を発見するワークショップを行い、たくさんの魅力と課題を引き出すことができました。

3月6日(日)には多摩市民館の調理室を使って、第2回出前たまサロンを行いました。テーマは「スイーツを作

てまちを語ろう」です。前半は「かわさきそだち」の野菜を使ったマフィンを作りました。後半は、第1回出前たまサロンで発見したまちの魅力をどう生かすか、またどうし

たら課題を解決できるのか、行動プランに変える糸口を見出すことができました。

今回の大きな特徴は、多摩区内にある専修大学、明治大学の学生を企画段階からお誘いして、若い人の意見を取り入れて行ったことです。会議のなかでの発言に目からうろこが落ちるようなこともあり、若い人のパワーや元気をもらいながら企画しました。

まちづくりに関心がある若い世代のご参加を、引き続き募集していきます。



ワークショップでアイデア整理



上手にできたマフィン

### <平成22年度の活動概要>

- メンバー構成  
まち協委員 9人  
プロジェクトメンバー 4人
- プロジェクト会議 月1~2回 計16回
- 出前たまサロン2回開催

## たまの魅力

## 足で見て、目で感じて、味わって



(多摩区の観光資源・地産地消のマップづくりプロジェクト 代表 安陪)

多摩区は多摩川、多摩丘陵に囲まれ、川辺や畑、ナシ園の緑が豊かで、地元で生産された野菜、果樹が直売所の店先をにぎわしています。また心休まる風景を多く見ることができる半面、宅地化の波も押し寄せています。

私たちのプロジェクトでは、2年間かけて多摩区内の直売所や観光スポットを調査してきました。

畑、ナシ園で農作業に励む農家の方々の姿や畑のそばにある直売所に並ぶ旬の野菜や果樹、黄色に色づく木立など、ふと目に入ってきた一息入れたくなるような心地よい場所、これら



取材内容を念入りに確認

の私たちが「足で見て、目で感じた」すばらしい場所を皆さんにも「味わって」もらいたいと思い、マップづくりに取り組んできました。

メンバーはみんな、地元の農業については素人で、どこで何が生産されているか知るよしもありませんでした。まず直売所を探すに

も「野菜の季節は?」「種類は?」「どこから、どのように?」と、基準を決めなくてはなりません。そして、観光スポットは一般に紹介されている所を重視するのではなく、「普段は見落としているよう



何気ないのに面白い風景

な、ちょっとした場所がいい」「地域の人から推薦する場所がいい」など、考えを整理して準備作業に入るのも大変でした。

肝心のマップもどのようなものにしていくのか、検討を重ねました。参考資料として他都市の各種マップを集めました。基礎調査を続けながら、企画をあれこれ検討し、さまざまな意見や提案をまとめ上げるのにひと苦労でした。

あとは地道に聞き取り用のアンケートと調査票を手に直売所を訪

ねました。畑で仕事のところをお邪魔し、お話を伺いました。作業中にもかかわらず、気軽にに応じてくださり、農作業にかける意気込みを語っていただきました。特にナシ園では品種の多さに驚き、授粉作業から直売所に並ぶまでの年間を通じた作業の話を聞

くことができました。

昨夏の暑さの中、日に3~4軒訪ねる予定が、作業の合間に訪ねることもあり、ついつい話はずんで、予定どおりにはいかないこともありました。

また、日本女子大SAKULABOの学生さんと連携し、学生の視点で地域を紹介するページを設けました。今後、彼女たちのようなまちガールが増えることに期待しています。

この冊子を手に直売所を回ったり、近辺をふらっと散歩して地域の歴史、文化に接したり、もっと地元を知ってもらえれば、多摩区の活性化にもつながるのではないのでしょうか。



多摩農MAPの完成!!

### <平成22年度の活動概要>

- メンバー構成  
まち協委員 7人  
プロジェクトメンバー 5人
- プロジェクト会議 月1回 計13回
- 取材 7~9月、1~2月にかけ、44直売所、34観光スポットを取材